

代理人としての AI に対する マッチング・コーディネート支援能力への期待

○藤原 貴典（岡山大学），北村 寿宏（島根大学），嵯峨山 和美（岡山大学）

1. はじめに

生成 AI の次のトレンドとして、「代理人としての AI (Agentic AI)」が注目されている¹⁾。図 1 は、これらの機能を示す。文字どおり、顧客の依頼をかみ砕き、「ヒトの代理人」に中継ぎする機能が期待される。これにより、煩雑な業務を簡素化して、直接的には人件費の抑制効果が期待されている。産学連携の役割への寄与は大きいのではないかと期待している。

2. 生成 AI の特性

よく知られているように、生成 AI は膨大な知識を持っている。しかし、質問者への回答

の出し方は、答えの出し方のチューニングに強く支配されている。これは、動画生成 AI である Sora2 (OpenAI, 2025 年 9 月 30 日リリース) が、公開直後の数日間という極めて短時間の間に「著作権侵害の指摘」を避けようとしたことから示唆される。

そして、今のところの生成 AI の「癖」は、データセットから得られる最適な解ではなくて、質問者が望む回答を好んで返そうとする「回答の揺らぎ」であろう。まさに、「心地よい応答をすることが、産学連携のコーディネーションに適しているのか？」との疑問は強く残る。ところが、これもチューニングの手法であるのだろうけれど、「反論する AI」²⁾が存在する。そこで、アクセルとブレーキの両方を備えることで、「参謀の意見」を求める機能の実現は十分な可能性がある。

3. 将来展望

社会が熱狂すれば、いずれは熱量が低下する。また、社会に対する倫理観のズレや欠落という AI のアライメントの問題が懸念されている。これについて以下に示す。

図 2 は、新しい技術やサービスなどの「過度な期待」と「幻滅」を経て成熟するまでの過程を 5 つの段階で示す (2025 年 8 月 5 日公表)³⁾。上のピークに、「AI エージェント」が位置する。この予測に従えば、「過度な期待」のピーク期“を間もなく終えて、”幻滅期“に移行することになる。

図 3 は、邪悪と正義の対抗を示す。生成 AI が自律的にデータを学習すると、人類とは倫理観のベクトルが異なる存在になるので、「牙を抜く」必要があるという見通しである。

産学連携業務には、大学別の事情を反映した仕組みであることが不可避であろう。つまり、個別のオンプレミス実装になり、それぞれがショーファー AI である必然性が極めて高い。すなわち、大学の数に相当する代理人 AI が乱立する。それらが、個別の大学間で存在する利害対立を内包することによって、産業界にとっての「福音」であるどころか、より一層の混乱を招くことがないように、「公正な立場の調整機能」を確立しておくことが必須になると考える。

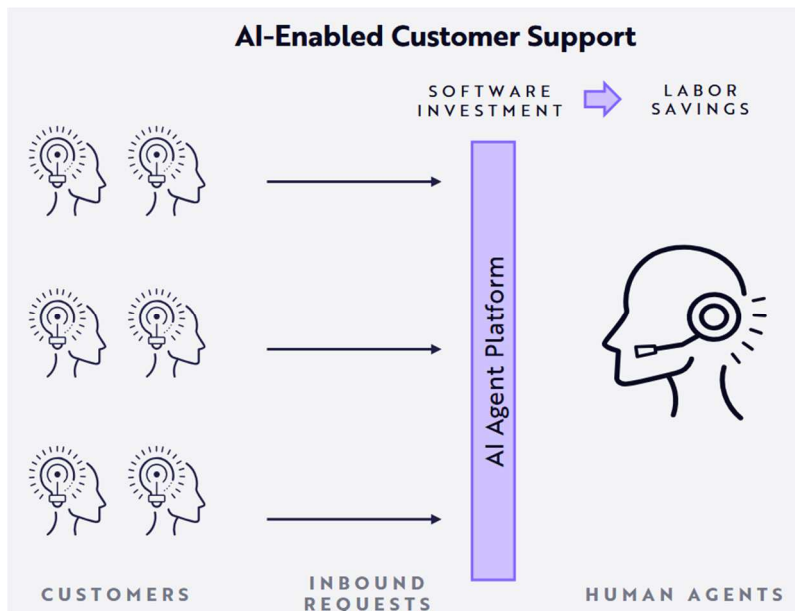


図 1 代理人としての AI に期待されている自律的な機能

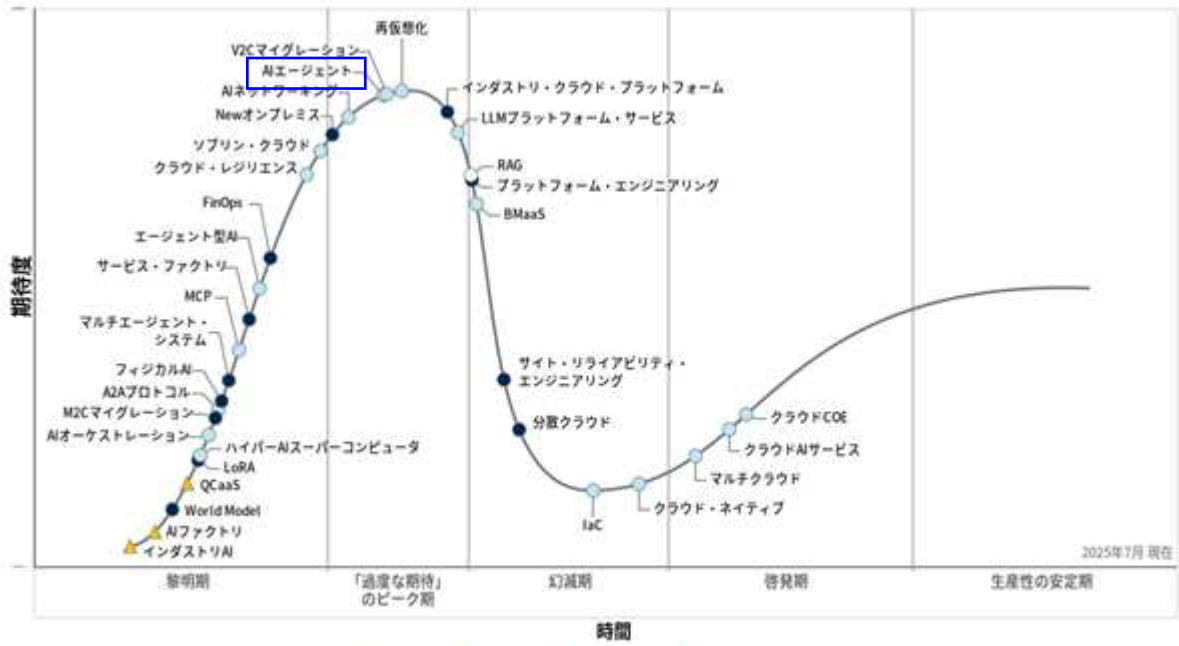


図2 日本におけるAIとクラウドのハイブ・サイクル (Gartner)



図3 倫理的に「ヒトに対立するAI」と「ヒトに寄り添うAI」

4. おわりに

産学連携推進の観点から、年間に2~3世代進化するAIへの希望を取りまとめた。

【参考文献】

- 1) ARK INVEST, BIG IDEAS 2025, https://research.ark-invest.com/hubfs/1_Download_Files_ARK-Invest/Big_Ideas/ARK_Invest_Big_Ideas_2025.pdf (2025.11.16 確認).
- 2) Katelyn Chedraoui (CNET News), 翻訳校正: 編集部 2025年10月03日14時31分, 「何でも反論してくるAI」と議論したら、ChatGPTより思考が深まった話, <https://japan.cnet.com/article/35238779/?tag=n1> (2025.11.16 確認).
- 3) Gartner, 「日本におけるクラウドとAIのハイブ・サイクル: 2025年」を発表, <https://www.gartner.com.co.jp/ja/newsroom/press-releases/pr-20250805-cloudai-hc> (2025.11.16 確認).
- 4) 栄藤 稔, シンギュラリティ最前線! 生成AIが切り拓く企業の未来像, UpdataNOW25 セミナー資料, 2025.10.15. (連絡先 藤原貴典, takanori@crc.okayama-u.ac.jp)